宍粟郷土研究会報
No.23
40・10・10
兵庫県宍粟郡
山崎町
教育委員会内
宍粟郷土研究会
電話750番

松平康映時代の分限帳（下）

島田　清

三、

慶安二年八月

松平周防守

宍粟より浜田へ御引越之節、名前

一、二千八百石　岡田竹右衛門
一、一千六百石　都筑　助太夫
一、一　千　石　松井　内蔵助
一、九百十石　石川作右衛門
一、六百石　高橋金左衛門
一、六百石　都筑　兵太夫
一、五百五十石　岡田惣左衛門
一、五百石　三宅文右衛門
一、四百石　太田　権兵衛
一、四百石　衣笠　団右衛門
一、三百五十石　石川三郎右衛門
一、三百五十石　滝　三郎右衛門
一、三百五十石　岡田五郎左衛門
一、三百石　石川治郎右衛門
一、三百石　渥美　半兵衛
一、三百石　松井　治兵衛
一、三百石　太田　兵四郎
一、三百石　石川　善太夫
一、三百石　岡田　内匠

目次

松平康映時代の分限帳(下)……島田　清……1
本多藩滞京日誌□……（明治元年）……9
本多家武具書画目録……12
秋季見学旅行記……12
郷土だより……12
会員名簿……12
あとがき……12

一、三百石　竹村才右衛門
一、三百石　今井瀬兵衛
一、二百八十石　今井嘉兵衛
一、二百八十石　貫名市兵衛
一、二百六十三石　岩佐杢太夫
一、二百二十石　太田安左兵衛
一、二百石　渡辺治郎兵衛
一、二百石　岡田八左衛門
一、二百石　松井門弥
一、二百石　西村八左衛門
一、二百石　杉山加賀衛門
一、二百石　星野弥兵衛
一、二百石　石川吉右衛門
一、二百石　浅香九兵衛
一、二百石　深尾太左衛門
一、二百石　葛結九左衛門
一、二百石　伊藤五左衛門
一、二百石　村井与三右衛門
一、二百石　竹尾藤左衛門
一、二百石　山中市郎兵衛
一、二百石　南弥五兵衛
一、二百石　成瀬三左衛門
一、百八十五石　岡田作兵衛

一、百八十二石　山崎助左衛門
一、百八十石　加藤又兵衛
一、百八十石　佐塚源兵衛
一、百七十三石　稲垣九郎右衛門
一、百七十一石　山口次左衛門
一、百七十石　左右田七太夫
一、百七十石　松井喜太夫
一、百七十石　太田五郎左衛門
一、百七十石　水野金右衛門
一、百七十石　木方久弥
一、百七十石　三宅清左衛門
一、百七十石　衣塚五左衛門
一、百六十二石　野村新兵衛
一、百六十石　松井次郎太夫
一、百五十石　別府小太郎
一、百五十石　岡田十郎右衛門
一、百五十石　石川三四郎
一、百五十石　村瀬吉左衛門
一、百五十石　布施半太夫
一、百五十石　日比基兵衛
一、百五十石　岡田粂右衛門
一、百五十石　平岩次郎右衛門
一、百五十石　佐塚源七

一、百五十石　荻田長左衛門
一、百五十石　池田七左衛門
一、百五十石　勝永範左衛門
一、百五十石　岡崎藤右衛門
一、百五十石　岡崎佐治右衛門
一、百五十石　上崎金弥
一、百五十石　大塚助之進
一、百五十石　鈴木十郎左衛門
一、百五十石　岡田伝左衛門
一、百五十石　尾崎何右衛門
一、百五十石　大岡半左衛門
一、百五十石　勝部四郎兵衛
一、百五十石　武井藤兵衛
一、百五十石　三浦孫左衛門
一、百三十石　加藤三治郎
一、百二十石　石川源右衛門
一、百二十石　栗田六郎右衛門
一、百二十石　高木庄兵衛
一、百二十石　栗田勘左衛門
一、百二十石　道川平左衛門
一、百二十石　宮田三右衛門
一、百十石　太田伝八
一、百十石　今井勘右衛門

一、百石　八田喜平
一、百石　藤井忠左衛門
一、百石　左右田九郎右衛門
一、百石　畑九郎兵衛
一、百石　石川十左衛門
一、百石　鶴田源右衛門
一、百石　牧野新左衛門
一、百石　藤江治郎左衛門

一、百石　高橋清四郎
一、百石　味岡与四右衛門
一、百石　石川清右衛門
一、百石　池原当左衛門
一、百石　今井新左衛門
一、百石　小久江権右衛門
一、百石　松井弥右衛門

一、一百石　稲垣作太夫
一、一百石　浅井源左衛門
一、一百石　寺西伊兵衛
一、一百石　松下助兵衛
一、一百石　阜川安兵衛
一、一百石　山崎太郎兵衛
一、一百石　今村為兵衛
一、一百石　太田甚左衛門
一、九十二石　奥田伊右衛門
一、九十石　水越江左衛門
一、九十石　岡田牛之允
一、八十石　三浦久右衛門
一、八十石　鈴木清右衛門
一、八十石　神谷徳右衛門
一、八十石　大須賀徳兵衛
一、八十石　金子喜七

一、八十石　平岩六右衛門
一、八十石　野村兵右衛門
一、八十石　原与兵衛
一、八十石　藤江茂兵衛
一、八十石　籾山佐太夫
一、八十石　武井治太夫
一、七十石　稲垣助右衛門
一、七十石　星野伝兵衛
一、七十石　内藤又右衛門
一、七十石　小田原弥兵衛
一、七十石　乃木五郎右衛門
一、七十石　栗田久右衛門
一、七十石　田中一甚兵衛
一、六十石　斉藤善右衛門
一、六十石　野村右衛門八
一、六十石　鈴木角左衛門
一、六十石　吉口右与之助
一、六十石　篠田弥之助
一、五十石　櫛原多兵衛
一、五十石　石田長意
一、三十石　小林七右衛門
一、三十石　木村林介
一、三十石　桑原茂右衛門

新刊書・雑誌・文房具

安井書店

山崎町本町通
電話(代)七〇〇番

一、二十石　内藤善七
一、二十石　石坂弥兵衛
一、四十石　同心二人

淡路守様衆

一、四百石　谷口与右衛門
一、三百石　菅野弥左衛門
一、三百石　谷口勘兵衛
一、百五十石　高木市左衛門
一、百五十石　山崎左源太
一、百二十石　富永小左衛門
一、百二十石　寺田弥五右衛門
一、一百石　荻田一郎兵衛
一、一百石　田辺道弥

主馬様衆

一、三百石　平塚五郎左衛門
一、一百石　森又右衛門

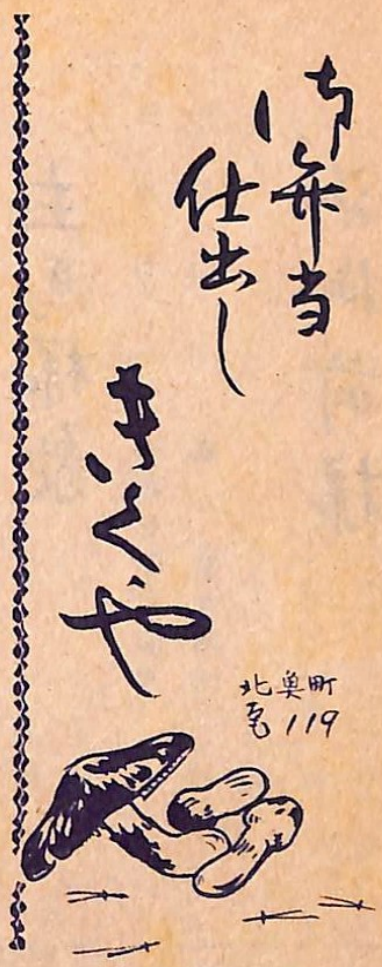
浜御前様

一、一百石　山崎紀右衛門
一、三十石　斉藤新兵衛

以上、掲げたものは士分以上の者ばかりですが、このほか、山崎から附いて来た家臣以外の家が二十四戸ありました。そのうち、名のわかつているものは左の通りです。

三河以来の家　三戸屋（上部氏）
遠江以来　牧野屋（牧野氏）松尾屋（松本氏）
駿河以来　岡野屋（岡崎氏）
常陸以来　顕正寺（幡谷氏）茶屋（岩間氏）
丹波以来　東野屋（東野氏）
和泉以来　田原屋（波多野氏）
和泉屋（鳥羽氏）常盤屋（鳥羽氏）
中村屋（中村氏）紀伊国屋（江川氏。本田氏）坂本屋（坂本氏）尾崎屋（大崎氏）
播磨以来　播磨屋（姓不詳）
出所不明　八百屋（三沢氏）袋屋（上柳氏）

大名の移封に有力な町人、或は特殊な関係のある寺院が附随してゆくことは他でも多く見る例です。松井松平家においても、出身地の三河から附いている三戸屋のほか、遠江



駿河・常陸・丹波・和泉と封地をかえるごとに新しい附随者がふえています。常陸での附随者が目立つて多いのは、笠間城三萬石の城主に取り立てられたため、御用商人がふえたのだろうと考えられますが、その後、丹波の篠山城五萬石の城主となつて十年間居城していたわりあいからすれば、一人というのは少いと言えます。しかし、山崎の前任地、泉州岸和田城の時代は新しい江戸時代の幕藩体制が確立された時だけに、御用商人もいちじるしくふえたのだろうと思います。山崎から付いて来た「播磨屋」の姓名がわからないのは惜しまれてなりません。（四〇・九月・二〇 稿）

明治元年 本多藩滞京日誌

（御近習頭　柴田小膳手記）

〇一月二日

一、今日雨天に付御駕籠にて御参内被遊、尤も五つ半御供揃被仰出候お供廻り旧冬廿九日の通り、御執政当役お見送り罷出候尤平服、但しお供着服の義昨夜お回状にて仰出も有之候に付お供頭両人おけ慰斗目上下余は平服に相成候、尚又遠見一人押一人お履揃一人〆三人は例の通りお雇に相成御所内御案内お雇は最早お止被成候事

一、今朝木村筑後介と申仁罷出御衣冠上け候に付当役応対いたし候

一、同酉の刻おきげん御本陣に入御今日御列座にて天顔被拝御料理御頂戴にてお帰邸

一、明三日初御当番に付五つ時お供揃の義大横目申達候お小納戸お次同断着服お供廻りは総て今日の通りと申達候

一、細川中将様、嶋津淡路守様御相番御筆頭に付御願御使者差出候、倉橋孫太郎、西村米次郎之を勤む

細川様へ

春寒御座候所御堅勝被成御勤珍重御義奉存候将又今般御相番相成候所至て不案内の義御座候間万端お心添被下候様仕度、右御頼以使者申上候以上

正月　御取次　奥村鉄之助

嶋津様へ

春寒御座候へ共御堅勝被成御勤珍重存候将又今般御相番相成候所至つて不案内の義万端御心添被下様致度、右御頼以使者申達候以上

正月　御取次　中嶋清三郎

一、稲垣対馬守様より御使者（御上書写）御使者木本孫左ェ門

春寒御座候へ共御堅固被成御勤珍重に存候将又今般御相番相成候所至つて不案内の義御座候間万端御心添被下様致し度右為御頼以使者申達し候以上

一、御番割左の通り此方様には三の御番へ御加入

壱番

松下　小将　松平　侍従　本庄宮内大輔
水野大炊頭　堀田出羽守　土方　大和守
酒井直之助　本多　修理　松浦　豊太郎

弐番

井伊　中将　黒田　少将　牧野　豊前守
谷　大膳亮　松平能登守　青木民部小輔
吉川芳之助　伊達締之助　稲垣　藤五郎

参番

細川　中将　嶋津淡路守　京極　飛弾守
此方様　桜井遠江守　稲垣　対馬守
岡部弥次郎　前田多慶若　山崎　寿丸

四番

高松　小将　大津　侍従　小笠原左ェ門督
本多河内守　本庄伯耆守　内藤　丹波守
平野内蔵介　杤木十太土

五番

津山
松平　侍従　京極佐渡守　森　対馬守
片桐主膳正　永井信濃守　池田　但馬守
山名主水介　仙石　鋭雄

〇一月三日

一、今朝如例御衣紋付罷出候、辰刻御供揃い御参内被遊候所今日は御酒御支度等御頂戴且つ御中啓壱握御拝領にて夕酉半刻御機嫌克御帰館被為候

一、今日山岸権内着京被致候右は少々御内用筋相談方俄に被仰付去臘二十九日御在所発程の由着の上それぞれ委細相談いたし候、後御目通りにて御用の次第被申上候

〇一月四日

一、今日有馬遠江守様より御着一折御使者を以て到来候右は御着御歓且つ御滞京御見舞に被在候段申来り候

一、今日御相番様方へ御頼御使者差出候、倉橋孫太郎相勤候尤細川様へは一昨日御使者を差上候へ共尚又昨日初御当番済され候に付御挨拶の為別段御使者差出し倉橋孫太郎相勤め候

一、山岸権内為御側使者三日月様へ被罷出候右は此度若殿様御上京の所至つて御不案内の義、三日月様には当地の御勤振御案内の義に付御頼被成度且は御隣藩の義に付是迄迚も御懇意にて御座候へ共、別て以来は御懇親を結ばれ度旨申述候就て御菓子箱送られ候代金五百疋

食肉
食鳥
全国環境衛生同業組合公認店
阪本精肉店
飛切りうまい
コロッケ
山崎中央商店街
電話 四五七番

一、御小納戸定加番岡橋一江へ申達し御次定加番菅江運達へ申達す

○一月五日

一、今日年頭御祝詞左の御方々様へ御廻勤被遊候尤お供廻り御減少左の通り

一 若殿様御慰斗目御麻上下 御馬
一 御供頭割羽織袴 同馬
御刀番同断 同馬

右の外御遠見御案内壱人、御道具壱本、御両掛一荷、宰領押兼壱人御草履一人

但し雨天模様に付御長柄御持相成候

御廻勤御名前

徳大寺殿 中御門殿 鷹司殿
東園殿 久世殿 越前中納言殿
宇和嶋様 細川様 高松様
備前様 三日月様

右の通り御手札に御口上は認被成御差出被遊候

年始為御祝詞
参上仕候 本多川守

雲上方 五枚
同文言

一、今日三日月様より御側使者を以て昨日の御挨拶且御見舞為鶏卵一箱御到来相成候、右御廻勤御留守中に付御取次より御留守中の趣御答に及び御品物預り置候御使者深沢杢太郎

一、戸田淡路守様より御着京御知せ御頼かたがた奉礼来る御返書御歓差出候

一、戸田銑五郎様へ御側使者として武間源三勤む

一、岡崎様へ御着京御案内の為御使者差出候、西村米次郎相勤む・御取次より追て御案内も申上可候へ共近日平八郎様にも御上京被遊候段申聞候

一、有馬様植村様末だ御上京は御座なく候へ共公用人中迄御案内奉礼差出候。（未完）

附記

会報十一号に、この日誌の一部を掲載しました。その続きを漸次発表いたします。明治初年の藩公の動静を知る資料として御覧願います。

本多家武具書画目録

昭和四十年九月二十六日旧山崎藩本多家所蔵の文書、地図、武具、書画、諸道具類の展覧が、山崎小学校で開催されたので、出品物のうちの武具、書画類の目録を作成した尚文書、地図類については、本会報記載済であるので参照されたい。

武具類

一、具足　四領
一、畳具足　二領
一、甲（冠・釣鐘形・鉄製）　三
一、珠数　一連
一、軍配　二本
一、采幣　五本
一、軍扇　三本
一、指物の毛　四ケ
一、前立　一ケ
一、肌着（本多忠朝）　三枚
一、三ツ団子馬験　四本
一、同　大一本
一、三階梠梗馬験　二組
一、千切馬験　一組
一、中黒旗　一対
一、中黒吹貫　一流
一、中黒紋付旗　一対
一、同　小一流
一、中黒指物　二十流
一、小袴　一組
一、陣笠　二ケ
一、陣羽織　一枚
一、烏帽子　一ケ
一、鎧直垂　一領
一、弓　四張
一、矢　三十本
一、箙　一ケ
一、箙付属矢　三十五本
一、靫　一ケ

新館落成

松茸狩予約受付中

十二波荘

庄能・揖保川畔
電話 山崎四五六

一、燕鞍鐙　一組
一、菊鞍　一背
一、紅葉鞍鐙　一組
一、障泥　一背
一、三尺帯（馬首）　二筋
一、馬面　三ケ
一、馬鐙　二背
一、馬柄杓　二本
一、鞭　四本
一、中黒旗幟造招共　一対
一、火事頭巾　一ケ
一、矢ノ根　十本

書画類

一、本多政貞（忠英）（絹堅）三幅対
鴛・芙蓉・蓮の画
一、本多政貞（絹横物）
日の丸に鶴の画
一、本多忠居書（横物）
「対鷗」の二字
一、忠居夫人懐紙（横物）
「待わびてみるほどもなきみしか祝におやなくしらむ夏の月影」の和歌一首
一、本多忠鄰（鶴山）（絹堅）
松に月の画
一、本多忠居書入孔子像（絹堅）
「本多肥後守藤原忠敬書之　与干片岡醇徳」と極彩色像の右側に書
一、本多忠可書（絹堅）
行書七行の語
一、本多忠勝像（絹堅）
武装して床几による肖像
一、古法眼（探幽）（絹大横物）
鴛鴦の画
一、狩野尚信　三幅対
釈迦・竜・虎の画
一、狩野常信　三幅対
寿老人・松鶴・竹亀の画
一、狩野光信（小絹堅）
北斗の画

各種自動車
鈑金と塗装
伊藤拡播社
新国道29号線・下広瀬
TEL 山崎 810
（夜間）311

一、狩野光文　（堅）
墨画に和歌讃あり
一、良　起　（絹堅）
牡丹に雀の画
一、広　沢　（堅双幅）
草書各七字の詩
一、伊孚久　（唐画）　（絹堅）
象を洗うの画
一、月堂書　堅二幅
各行書で十二字
一、燕　斉　（堅）
六字一行の書
一、川上謙二郎　（堅）
六字一行の書
一、武将花押　一巻
一、家臣繻図　一巻
一、猪狩行列　三巻

秋季見学旅行記

九月二十六日本会秋季見学旅行は、会員参加百三十余名二台の観光バスで山崎出発は朝六時半であった。三河より佐用の朝霧を突破して江見、林野を経て「津山城」へ到着快晴に恵まれた天気で城趾をゆつくり見学。三百六十年前森氏築城の城郭も明治八年に取毀たれ、現在は大石垣が各所に残り昔の隆勢が偲ばれる。城を下りて近くにある旧藩主の庭園「衆楽園」を見て廻る。池には美しい水蓮が咲いて居て、白鳥が悠々と浮いて居た。それから市内を横断、「作楽神社」に参拝、児島高徳の古蹟をあとにして車は一路南下「誕生寺」へ着く。早速気安い和尚の好意によつて本堂に参拝。法然上人木像の開帳を受け更に親切なる説明があり、その後、大書院で一同昼食をとつた。食後堤内にある大銀杏、大仏、上人父母の廟堂、宝物館などを拝見した。それより帰路につき三時頃に「湯郷温泉」に着き、かつらぎ館の大広間で一同休憩、湯に入り足を伸ばして、一寸温泉気分を味うて山崎帰着は七時であつた。

来春五月には、待望の淡路行を計画していますから、皆様の御支援を願います。

（安　井）

各種自動車
修理販売

自動車検査場完備しました。
車検及び定期車検はどうぞ

大阪陸運局認証工場
富士整備
TEL 山崎 807
808
市外専用 2

会員名簿(19)

本町・志水太郎吉　中鹿沢・西島政一
須賀沢・石川政太郎　鴻ノ町・瀬畑つぎ

郷土だより

●新山崎町十周年記念　山崎町外七ケ町村が大同合併して十年、七月二十日この記念式典を山崎中学校体育館で挙行各種団体長ら三百五十名出席、町政功労者に感謝状贈呈などを行い、行事として山崎小鼓笛隊のパレード、自衛隊音楽隊の演奏会、自衛隊武器展示等。八月一日にNHKのど自慢大会を山崎中体育館で公開録音。八月上旬には、各地区別に町政懇談会を開催して好評であつた。

●ライオンズクラブ認証式　同クラブ山崎支部（支部長村上彰治氏）のチャーターナイト伝達式が、九月二十六日下村記念会館で挙行。全国各地よりクラブ員六百名の参加あり、協賛のため山崎小学校で、旧山崎藩本多家の秘蔵品展覧会、野立茶会あり、余興に山崎地方舞踊、奇術などが山崎中体育館で行われた。尚、同クラブは、山崎小、山崎中文化センター基金に五十五万円を寄贈した。

●文化センター　かねて本会より要望していた郷土館及び図書館などを総合した文化会館の建設も、町当局で具体案が出来、来年には実現の可能が予想される。

●観光協会設立準備　山崎町の観光施設の立遅れは、識者の認めるところで、最近山崎観光協会（仮）の設立委員会を組織して、町当局、商工会を中心に研究が進められ、近く正式に発足することになつた。

●テレビ中継所　山崎地区のテレビ視聴を明瞭にするため戸原の山上に中継所が建設中で、近く工事完了予定。NHKの難視聴テレビもこれで解消すると期待されている。

（横井）

あとがき

本号は大変かた苦しいようなものばかりになつて申訳ありません。どうか興味ある記事をどしどし御寄稿下さるようお願い申します。

食堂と御休憩
茶の井
駐車場あり
今宿国道沿い
電話 二三七番